

令和元年度第1回国分寺市地域福祉推進協議会 議事録

日時：令和元年6月27日（木）
午後6時30分～午後8時30分
会場：cocobunjiプラザ リオンホール

出席委員 64名

事務局 地域共生推進課長（近藤），地域共生推進課地域づくり担当係長（井岡）
地域づくり担当係員（米田，荻野）

次第

- 1 委嘱状交付
- 2 市長あいさつ
- 3 会長及び副会長互選
- 4 国分寺市地域福祉推進協議会の運営について【資料1】
- 5 「委員自己紹介・取組シート」集について【資料2】
- 6 取組の紹介
 - ・川端 真紀氏（国分寺市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター）
 - ・川合 真由美氏（国分寺市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター）
 - ・織井 恵美子氏（個人の市民）
 - ・大江 潤子氏（個人の市民）
 - ・田中 久美子氏（国分寺市“社会を明るくする運動”推進委員会）
 - ・田中 博氏（国分寺市“社会を明るくする運動”推進委員会）
 - ・林 博行氏（国分寺市“社会を明るくする運動”推進委員会）
- <<各回参加>>
 - ・東京経済大学 ボランティアサークルClover
- 7 委員交流タイム
- 8 その他

開会 午後6時30分

1 委嘱状交付

事務局（近藤地域共生推進課長）より，委嘱状を机上配布にて交付した。

2 市長あいさつ

市長が欠席のため，事務局（近藤地域共生推進課長）よりあいさつ文を代読した。

3 会長及び副会長互選

会長について，社会福祉法人国分寺市社会福祉協議会事務局長の熊谷委員より特定非営利活動法人あおぞら理事長の原委員が推薦され，全会一致で承認された。また副会長について，特定非営利活動法人国分寺市手をつなぐ親の会の阿部委員より，国分寺市民生委員・児童委員協議会の宮崎委員が推薦され，全会一致で承認された。

【原会長挨拶】

4年目を迎えた当協議会は、団体推薦の方及び個人の方が、地域福祉活動にかかわるお互いの情報を共有する大きな目的とともに、自らができる地域福祉の目標を定め、その実現に取り組むというユニークな目的を持っています。今年度、これまで以上に活動を強化促進し、委員相互の交流や連携が一層進み、点や線から面への活動の発展を目指し、お互い努力して参りたいと思います。本年1年間、どうぞよろしく願いいたします。

【宮崎副会長挨拶】

協議会に参加し、4年目を迎えました。新たな委員が増え、団体推薦の方及び個人の方が自ら掲げた目標に取り組みつながりあう本会の活動が、更に発展していくものと思います。今年度は、委員相互のつながりから新たな活動が進展した事例の共有を期待しているところです。皆様と一緒に目標への取組を進めます。どうぞよろしく願いいたします。

4 推進協議会の運営について

事務局（井岡地域づくり担当係長）より、国分寺市地域福祉計画に位置付けられた協議会であること、また年間のスケジュールについて説明した。

5 「委員自己紹介・取組シート」集について

事務局（井岡地域づくり担当係長）より、資料2は各委員の自己紹介及び取組をまとめたシート集であり、例年同様に市のホームページやオープナーにおいて公開予定であることを説明した。

6 取組の紹介

【発表】

・国分寺市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター 川端 真紀氏, 川合 真由美氏

市を東西に分け、西地区として、高齢者の地域包括支援センターの圏域では、ひよし・ひかり・なみきの地域を川端が担当します。また東地区として、高齢者の地域包括支援センターの圏域では、もとまち・こいがくぼ・ほんだの地域を川合が担当します。

地域に伺い、自治会での活動を話し合う場や地域イベントに参加し、また様々な相談対応を行うなど、地域の方や関係機関との連携を進めています。ボランティア活動センターこくぶんじを拠点としていますので、地域活動についてなど、お気軽に御相談ください。

・個人の市民 織井 恵美子氏

新町から参りました織井恵美子と申します。前任者の方の退任により、後を引き継ぎ参加しました。今後、皆さまの活動を参考に勉強して参りたいと思います。周囲の状況やメディアの報道などから、シニアの独居や高齢夫婦世帯の増加を感じます。歩行困難や出掛ける理由の減少などから、外出を控え、町で見かけなくなった人もいます。活動的だった人が独居となって在宅時間が長くなり、台所はコンビニエンスストア、外出はもっぱら通院で、会話が減り声が出なくなった、などの状況を伺います。一方、壇上から元気に話をする90歳を超えた方もいます。今、地域で何ができるかを考えています。身近な小さなグループで、高齢やシニアの方とお茶でおしゃべりしたり一緒に外食する、百人一首などゲームを楽しむ、赤ちゃんや子どもと高齢の方が交流する、などもよいと思っています。赤ちゃんの笑顔や子どもの元気な声は活力の源だと思っています。

また、私は国際協会の日本語教室にて外国人に日本語を教えています。市報などでも

国分寺市在住の外国人が増加しており、今後日本人外国人を問わず、高齢シニア世帯の課題が出現すると思います。以上です。

・個人の市民 大江 潤子氏

大江と申します。これまでに多数回の引っ越しを経験しましたが、国分寺市は在住13年目で最長です。教員をしていますが、地域で何かお役に立てることはないかと考え、この会に参りました。地域のコミュニティづくりに興味があり、常々感じている生きづらさの軽減につなげられないかと考えています。外から内を守る閉じた世帯の集合体ではなく、互いに開く関係になればと漠然と、しかしその必要性を日々実感しています。

例えば今すぐ私にできそうなことは、放課後に学校の宿題を近所で一緒にみる宿題カフェのような至近距離にある見守りです。主催者の顔が見える形態でのやり方を考えています。ここ10年ほど耳にする「住み開き」、「開く住まい」のあり方にも興味があります。地域に必要な考え方だと思っています。今後ともご鞭撻のほどお願いいたします。

・国分寺市“社会を明るくする運動”推進委員会 田中久美子委員、田中博委員、林博行委員

今年度から新規団体として参加させていただきます，“社会を明るくする運動”の田中久美子と申します。委員として私のほか田中博さん、林博行さんの3名でご一緒させていただきます。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が犯罪や非行の防止と、罪を犯した人の更生について理解を深め、それぞれの立場で力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築くための全国的な運動として、法務省主唱により行われています。ここに参加されている方で、

“社会を明るくする運動”の構成団体として一緒に活動した方もいらっしゃいます。地域社会で犯罪や非行が生まれ、罪を償い、更生を果たす場も地域社会であることから、地域で見守り支えていく環境づくりが欠かせません。あやまちから立ち直ろうとする人が、地域で適切な「仕事」と「居場所」を確保し、社会復帰への環境を整える取組も、犯罪予防、再犯防止のための大切な役割です。あやまちから立ち直ろうとする人を手助けする活動の存在を、みなさんに周知する活動は、“社会を明るくする運動”，略して“社明運動”にとって重要な活動となっています。

国分寺市社明推進委員会では、年4回の会議、地域まつり等での刑務作業製品の販売や、日吉町の畑をお借りしてひまわり迷路の開放、市内小中学生によるコンサートを通して、更生保護や犯罪予防の周知活動を行っています。特にひまわり迷路は、市内でも最大級のひまわり畑を7月下旬から8月上旬に一般開放し、毎年子どもから大人までたくさんの方々が訪れます。今年も開放予定ですので、是非みなさんもお越しください。

さて、ここでもう少しみなさんに是非お伝えしたいことがあります。昨年度“社会を明るくする運動”作文コンテストで法務大臣賞を受賞した長野県の小学生の作文で、女性刑務官との対話の様子が書かれています。とてもハッとさせられる内容でしたので、抜粋して読み上げさせていただきます。

(抜粋箇所)

なぜ彼らは罪を犯してしまったのか質問した。すると、「受刑者たちは皆、『お母さんに自分の方を向いてほしかったから』と言います」と教えてくれた。その答えに疑問を感じ、「なぜ悪いことをするのですか。いいことをすれば褒めてもらえるのに」とさらに聞いてみると、驚く答えが返ってきた。「ふつうはそう考えますね。でも彼らのお母さんは、子どもが良いことをしても褒めてはくれなかったそうです。『手がかからなくていいわ』と放って

おくのでしょうか。お母さんが子どもの方を見てくれたのはいたずらをした時でした。お母さん自身が困るので子どもを叱ります。だから子どもは自分を見てもらうために、万引きや暴力など悪いことをするしかなかった。叱られるのがうれしかったそうですよ。」この答えは衝撃的だった。叱られるのがうれしいなんて。私の犯罪者に対するイメージが変わった。

(抜粋おわり)

この子はこの後、犯罪や非行に走らないためには「心配ごとや悩みがない穏やかな心の状態である『安心』できる環境が必要だ」という考察に向かっていきます。この作文から、何かを感じ、考えるきっかけになればと思い、ご紹介させていただきました。だれもが安全で安心なまちづくりは、私たちの活動だけでは実現できません。今回の参加をきっかけに、いろいろな団体の活動を参考にさせていただきたいと思っています。

最後に今年度の課題として、周知活動の対象を広げるため、広報の方法についてこの協議会でいいアイデアを得ることが出来ればと思っています。ご静聴ありがとうございました。

・各回参加（東京経済大学ボランティアサークルClover）

国分寺市を中心に、近隣市でもボランティア活動を行っています。ボランティア活動を通じて感じた課題について意見を出せる貴重な場として協議会に参加しました。市内駅周辺や池の清掃、公民館での学習支援、国分寺消防署連携災害支援、もとまちファミリー運動会など、それぞれの活動に魅力を感じながらボランティアとして参加しています。

～10分休憩～

7 委員交流タイム

グループ内で自己紹介や各自の取組などについて情報を交換したのち、地域活動における課題について、付箋を使用しながら意見交換を行った。

- ・障害があることが問題ではなく、障害が問題となってしまうことが問題ではないか、との意見があった。
- ・地域の活動場所が不足している。支援を必要とする人の情報がなく、災害時の支援活動において支障となることを懸念している。
- ・高齢化による自治会の班長のなり手不足や、活動拠点が少ないなどの課題がある。行政が自治会加入のメリットを広報して欲しい。多世代や子ども向け行事により、活動を活性化したい。健康寿命を延ばし、生きがいにもなるボランティア活動に取り組みたい。
- ・地域の個々の活動がつながり合い、点から線に取組がつながっている。人の個性は多様であり、様々な人が共に暮らす地域を目指したい。
- ・多世代交流を意識した取組や、世代ごとに異なる要望の共有などにより、自治会への加入率が変わるのではないかと意見があった。
- ・自治会の高齢化や空き家の増加などは関連した課題であることが分かった。若い世代とこうした課題を共有できるとよい。
- ・子ども食堂について、フードバンクとの連携や、独居の高齢者が調理に関わる取組などについて意見があった。地域の人との関係性づくりについて意見交換した。
- ・地域における互いへの無関心が、孤独や孤立を感じる要因にもなる。世代を問わず交流できる公園の活用やお祭りの開催が必要などの意見があった。申込み不要で、気軽に参加できる地域のイベント情報を周知できるとよい。
- ・自治会において、独居高齢者の状況を把握し、災害時安否確認カードを利用した取組を行っている。

- ・地域で顔の見える関係づくりを広げるため、誰もが集える居場所が必要である。互いに声を掛け合える地域づくりを進めていきたい。

8 その他

次回協議会は当初の日程を変更し、10月24日（木）午後 6時30分よりリオンホールで開催する。委員相互の情報共有を深めることと併せ、地域福祉計画実施計画に基づく平成30年度事業評価に対する意見を伺う予定である。また市職員の地域参加にかかわる環境整備として、地域情報を職員に周知するため、地域団体のイベント情報について事務局への提供をお願いした。

9 閉会

原会長より、委員の活動が地域福祉につながり、地域の支え合いを広げるため、取組の推進について呼び掛けがあった。次第が終了し、閉会した。

閉会 午後8時30分